

科目名	介護実習 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	40時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	特別養護老人ホームにおいて 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					利用者の個別性を理解するためのコミュニケーション方法について説明できる	
	○		○			介護福祉専門職としての在り方を述べることができる	
	○		○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる	
	○		○			社会人としての基本的マナーが実践できる	
			○			指導者の指導を受け、メンバーと協力して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	指導者の利用者との関係性や施設の役割を知る				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	介護福祉士の役割について理解する				日々の実習記録の記載・プロセスレコード	
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。 A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習態度		○		○		50%
	記録提出		○		○		50%
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	グローバルシティズンベーシック I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1	時間数	8コマ	担当者	吉水美穂		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	この科目では、世界が自立しながらも互いに協力し合うことで成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し、地域・国家の発展に協力できる人を目指すことを目的とし、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)について学ぶ						
授業形式	講義	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					麻生塾の求めるコンピテンシーについて理解する。	
		○				日常生活で意識して行動にうつすことができる。	
		○				キャリアビジョンをもち、その目標達成への具体的な行動を述べるができる。	
		○		○		授業で学んだことに対して自分の考えをレポートにまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	3	よりよい人間関係の構築に向けて モラル・ルール・マナーの重要性				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	4	マナーの本質 I				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	5	マナーの本質 II				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	6	グローバルシティズンとしての日常				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	7	グローバルシティズンとしての目標				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
	8	グローバルシティズンとしての「志」にむけて				テキストにあらかじめ目を通しておくこと 授業のあとはもう一度学習内容を振り返ること	
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループワークでの参加状況 (3)授業中の態度(居眠り・私語・積極的な発言)以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、R評価とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート		○		○		50%
	出席状況				○		20%
演習(グループワーク)		○		○		30%	
履修上の注意	レポートは期限を守る。誤字・脱字がないか確認し丁寧な字で記入する。授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	からだのしくみ I (前期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度	目標		
	○				生活支援技術の根拠となる人体の構造や機能について学び、関連した疾患の概要を説明することができる。		
	○				代表的な疾患や症状を知ったうえで、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。		
	○				介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。		
	○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。		
			○		利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面へ配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康の意義と病気の捉え方、介護福祉士にとっての医学知識について					
	2	脳・神経系のしくみとはたらき①中枢神経系			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	脳・神経系のしくみとはたらき②末梢神経系			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	感覚器系のしくみとはたらき①視覚・嗅覚器			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	感覚器系のしくみとはたらき②聴覚・味覚器・皮膚			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	循環器系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	呼吸器系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	消化器系のしくみとはたらき①消化管			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	消化器系のしくみとはたらき②消化腺			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	泌尿器系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	骨格系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	筋肉系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	生殖器・内分泌系のしくみとはたらき①生殖器			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	生殖器・内分泌系のしくみとはたらき②内分泌系			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	血液・リンパ系のしくみとはたらき			・前単元の授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。 ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)前期30時間(15コマ)終了時に前期定期試験を実施し、後期30時間(15コマ)終了時の後期定期試験との総合評価を通年の評価とする。 (2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)宿題・レポートを数回実施する。(4)定期試験(筆記)を前後期に実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	発表・作品	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、前期定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期／半期科目	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者の家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護を必要とする人とのコミュニケーションの意味と役割を理解する。	
	○			○		介護現場で利用者およびその家族とのコミュニケーションを深めるための様々な技法を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己開示(1) 自己紹介					
	2	自己開示(2) 自己紹介					
	3	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の方言					
	4	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(1)					
	5	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(2)					
	6	介護におけるコミュニケーションの基本 コミュニケーションとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	コミュニケーション態度に関する基本技術(1)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	コミュニケーション態度に関する基本技術(2)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	言語・非言語・準言語コミュニケーション、利用者の感情表現を察する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	目的別のコミュニケーション技術、利用者の納得と同意を得る技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	相談・助言・指導の技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	利用者の意欲を引き出す技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	利用者と家族の意向を調整する技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	集団におけるコミュニケーション技術、複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	①定期試験(筆記)を実施する。②グループワーク、発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	医学一般						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	15	担当者	柏木秀行		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	人体の構造と機能及び疾病の基礎的理解をし、その内容を把握した上で、相談援助活動に役立つ知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		人体の構造について理解する	
	○	○		○		疾患について理解する	
	○	○		○		ICFの定義について理解する	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				授業の進め方について解説する	
	2	国家試験分析				国家試験で必要とされる医学知識について解説する	
	3	人の成長と発達・老化				人の成長と発達・老化について解説する	
	4	身体構造と心身の機能				身体構造と心身の機能について解説する	
	5	疾病の概要 悪性新生物				悪性新生物について解説する	
	6	疾病の概要 脳血管障害				脳血管障害について解説する	
	7	疾病の概要 心疾患・高血圧				心疾患・高血圧について解説する	
	8	疾病の概要 糖尿病と内分泌疾患				糖尿病と内分泌疾患について解説する	
	9	疾病の概要 骨・関節疾患				骨・関節疾患について解説する	
	10	疾病の概要 神経疾患と難病				神経疾患と難病について解説する	
	11	疾病の概要 終末期医療と緩和ケア				終末期医療と緩和ケアについて解説する	
	12	障害の概要 認知症				認知症について解説する	
	13	障害の概要 精神障害				精神障害について解説する	
	14	リハビリテーション・国際生活機能				リハビリテーションと国際生活機能について解説する	
15	振り返りセッション				授業で生じた疑問や深く学びたい点について議論する		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護概論・介護福祉総論(前期)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 介護福祉科						
授業概要	介護福祉士の誕生した背景を理解し役割や求められる専門性を理解する。 今後の介護現場で求められる介護福祉士の専門性について知識を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士が誕生するまでの時代背景を理解する。	
	○					介護福祉士の役割と機能を理解し、多職種との連携・協力の重要性を説明できる。	
	○					社会福祉士及び介護福祉士法について理解する。	
	○					介護福祉士養成カリキュラムについて理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 一介護の基本 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 介護福祉士を知る				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護のなりたち—言葉、歴史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護のなりたち—専門職が誕生した背景				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	介護の概念の変遷—1970年代				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	介護の概要の変遷—1980年代				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	介護の概要の変遷—1990年代以降				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	介護福祉の基本理念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	介護福祉士の役割と機能—介護予防				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	介護福祉士の役割と機能—人生の最終段階の支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	社会福祉士及び介護福祉士法				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	社会福祉士及び介護福祉士法—諸規定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	介護福祉士の義務規定				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護福祉士養成カリキュラムの変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	介護福祉士をまとめる団体				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	介護福祉士をまとめる団体—日本介護福祉教育学会				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習 I (前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	通年	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	学生が主体的に、自己の実習の目標や課題を明確にし、介護実習を円滑に行うための知識や技術の習得が できている。実習後は実習の成果を学生間で共有できるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			実技試験に4回目までに合格できる	
				○		すべてに出席できる	
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる	
				○		授業態度	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護実習・総合演習」 介護実習日誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	なぜ実習に行くのか意義・目的					
	2	実習先発表、自己紹介表記入					
	3	調べ学習					
	4	目標設定					
	5	日誌下書き					
	6	日誌清書					
	7	実習内容					
	8	実習の決まりごと確認					
	9	実習前審査リハーサル					
	10	事前挨拶／実習前審査					
	11	事前挨拶／実習前審査					
	12	お礼状／申し送り簿記入					
	13	報告会準備					
	14	実習報告会					
15	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席している こと 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○				20%
	発表・作品						
	実技試験			◎	◎		80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護福祉各論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科						
授業概要	介護を必要としている人の生活を理解し、専門職としてどのような支援が求められるのかを理解する。また、どのようなサービスを利用しどのような機関と連携して支援をしていくのかを学ぶ。介護の現場で求められるリスクマネジメントについて理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					私たちの生活とはどのように成り立っているのかを理解する。	
	○					生活について理解し、生活ニーズとは何かを説明することができる。	
	○					地域連携に必要な機関、専門職について説明できる。	
	○					介護サービスの提供においてなぜ事故防止が必要なのか説明できる。	
○					感染症について原因、症状、対策が説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 一介護の基本Ⅱ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 私たちの生活の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	私たちの生活の理解—生活の特性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護を必要とする人たちの暮らし				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	その人らしさと生活ニーズの理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	生活しづらさの理解とその支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	生活を支えるフォーマルサービスとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	生活を支えるインフォーマルサービスとは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	地域連携とは—意義と目的				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	地域連携とは—機関の理解				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	介護における安全の確保とリスクマネジメント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	介護の場におけるセーフティーマネジメント				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	リスクマネジメントとは何か				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	事故対策のための対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	感染症対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	感染症対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	社会福祉援助技術論 I						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	①社会福祉士の意義と役割について理解し、相談援助専門職概念について学ぶ。 ②相談援助の形成過程・理念と範囲・専門職の倫理について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					ソーシャルワークの概要を説明できるようになる。	
		○		○		実際の福祉現場でソーシャルワークがどのように活用されているかを知る。	
	○					ソーシャルワークの歴史的経過を習得する。	
		○		○		ソーシャルワークの重要な理念と原則を体得する。	
テキスト・教材 参考図書	空閑 浩人 『新基礎からの社会福祉 ソーシャルワーク』 ミネルバ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	現代社会とソーシャルワーク ①引きこもりの青年への支援 ＜グループディスカッション＞					
	3	現代社会とソーシャルワーク ①引きこもりの青年への支援策					
	4	現代社会とソーシャルワーク ②こどもへの支援					
	5	福祉現場を知る ＜実習に向けて＞					
	6	ソーシャルワーカーの資格と仕事①					
	7	ソーシャルワーカーの資格と仕事②					
	8	ソーシャルワーカーの専門性と職能団体					
	9	利用者の理解と支援のあり方					
	10	ソーシャルワークの歴史①					
	11	ソーシャルワークの歴史②					
	12	ソーシャルワークの理念①					
	13	ソーシャルワークの理念②					
	14	ソーシャルワークの理念③					
15	ソーシャルワークと倫理						
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会福祉概論 I						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15	担当者	大原朋子		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1学年						
授業概要	社会福祉の原理や概念、思想、歴史、および社会福祉援助の対象、福祉ニーズの概念やその把握法を学び、そのうえで、社会福祉に関わる制度・政策の法制度、体系、行財政、民間部門の福祉事業・活動の現状、さらにはその方法と展開過程および組織と運営、従事者と資格、その動向と当面の展望を学ぶ。さらに、福祉政策の論点や福祉政策における政府、市場、国民の役割、およびその手法と政策決定過程、政策評価、福祉供給部門・過程、福祉利用過程からなる福祉政策の構成要素、また、教育・住宅・労働政策からなる関連政策を学ぶ。福祉専門職として、福祉政策や地域福祉を見据えた、広角のかつ実践的な視点を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会福祉の原理や概念について説明することができる。	
	○					世界的な社会福祉の歴史的発展過程について説明することができる。	
	○					我が国の社会福祉の歴史的発展過程と現代の社会福祉へのつながりを説明することができる。	
		○				社会福祉の法制度について学び、実際の社会福祉事業と結び付けて説明することができる。	
			○			現代の福祉的課題について考え、自らの意見を述べることができる。	
テキスト・教材 参考図書	現代の社会福祉士養成シリーズ 第3版 現代社会と福祉 kumi出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目オリエンテーション、社会福祉概論 I の振り返り			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	社会福祉の概念 社会福祉とは何か			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	社会福祉の概念 社会福祉制度について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	福祉制度の概念と理念 社会福祉法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	福祉制度の概念と理念 福祉六法について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	福祉の原理をめぐる理論、哲学と倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	福祉政策の主体と対象			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	福祉制度の発展過程 イギリス①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	福祉制度の発展過程 イギリス②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	福祉制度の発展過程 アメリカ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	福祉制度の発展過程 日本			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	現代社会と福祉 現代の福祉的課題について考える①					
	13	現代社会と福祉 現代の福祉的課題について考える②					
	14	まとめ					
15	試験前オリエンテーション						
評価方法	(1)グループワークを実施する(参加態度) (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品		○		◎		20%
履修上の注意	授業時にはレジメを配布します。						

科目名	障害者福祉論(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下雅弘		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域意向や就労の実態を含む)について理解する。 ②障害者福祉制度の発展過程について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。	
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。	
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版:障害者に対する支援と障害者自立支援制度 ・ミネルヴァ書房:よくわかる障害者福祉						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	障害者を取り巻く社会情勢			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	障害者を取り巻く社会情勢			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	障害者の生活実態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	障害者の生活実態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	障害について考える・レポート課題発表			レポート課題について調べる		
	6	障害について考える・レポート課題発表			レポート課題について調べる		
	7	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	障害にかかわる法体系			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	法律、制度等に関するレポート課題発表			レポート課題について調べる		
	14	法律、制度等に関するレポート課題発表			レポート課題について調べる		
15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策						
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		◎				30%
	課題レポート				◎		10%
	発表				◎		10%
履修上の注意							

科目名	心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒剛		
実施年度	2019年	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 ②人の成長・発達と心理との関係について理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理的支援の方法と実際について理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				心理学理論による人の理解とその技法の基礎的理解する	
	○	○				内容を把握した上で、相談援助活動に役立つ知識を身につける	
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 心理学理論と心理学支援						
授業計画 授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」					
	2	心理学への招待「心理学とその歴史」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと	
	3	心と個性「性格心理学」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	4	心と個性「さまざまな性格理論」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	5	人との関わり「社会心理学～同調行動、群集心理、ステレオタイプ」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	6	人との関わり「社会心理学～合理化、PM理論、社会的ジレンマ」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	7	心の育ち方「発達心理学～乳幼児期から思春期まで」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	8	心の育ち方「発達心理学～青年期から成人まで」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	9	心のしくみ「心と脳」「知覚・学習・認知心理学」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	10	心のしくみ「学習・記憶・思考」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	11	心のダメージ「臨床心理学の基礎」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	12	心のダメージ「さまざまな精神疾患」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	13	心のケアと支援「心理的支援の方法と実践～カウンセリング、心理療法、心理アセスメント」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	14	心のケアと支援「コミュニティ心理学～ケアと地域支援」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。心理学用語の意味を調べる。	
	15	まとめと復習				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。期末試験対策	
評価方法	期末試験を実施する。 出席回数。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	人間の尊厳と自立								
科目名(英)	human dignity and self-reliance								
単位数	2	時間数	30	担当者	前田浩明				
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	介護福祉科1年								
授業概要	介護・福祉の現場で働く専門職として、その職業倫理の基盤ともいえる人間の尊厳及び介護場面における利用者の自立支援について、そのことの本質的な意味を理解することによって、介護現場で「実践」として展開できる能力・資質を涵養することを目的として授業を行う。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○				介護福祉士が理解すべき人間の多面性を理解する。			
		○				人間の尊厳とは何かについて専門職が大事にしなければならないことを理解する。			
		○				介護福祉士が利用者の自立を支援する意義、求められることを理解する。			
	○					介護現場における権利擁護について制度や予防体制等について理解する。			
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房テキストブック編集委員会 介護福祉士 人間と社会編 吉賀成子監修								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション～尊厳と自立をいかに学ぶか～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	介護における尊厳と自立について① ～GWIにてイメージを掴む～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	介護における尊厳と自立について② ～イメージを具体化する～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	介護における尊厳と自立について③ ～自分の言葉で表現してみよう～「人間」の多面的理解～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み ～生存権の成立、日本国憲法～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	尊厳のある介護、自立支援につながる介護とは？ ～介護実習Ⅰを一人ひとり振り返る～				実習記録を事前に読み返しておくこと			
	7	相模原市 津久井やまゆり園の事件から考える障害者の命、人権				当該事件についての情報を把握しておくこと			
	8	高齢者虐待の現状② ～認知症高齢者を守る取り組みとは～				認知症の高齢者が被害者となる事件について整理しておくこと			
	9	子どもの貧困 ～子どもたちの環境にどんな変化が起こっているのか～				子どもの貧困について背景や各地の対策等について理解を深める			
	10	「ホーム」の回復をめざして NHKプロフェッショナル 絆が人を生かすから ～ホームレス支援 奥田知志さん～				ホームレスの現状や支援態勢について事前学習する			
	11	ココがズレてる健常者 障害者100人がモノ申す！ NHKバリバラ特番				障害者の人権について事前に調べておく			
	12	あなたは私の手になれますか？～小山内美智子のメッセージ～				障害者の人権について事前に調べておく			
	13	奪われた尊厳① ～元ハンセン病患者の隔離政策から人間の尊厳について学ぶ/DVD視聴～				ハンセン病の歴史について整理しておくこと			
	14	奪われた尊厳② ～元ハンセン病患者 詩人桜井哲夫さんの帰郷(ドキュメンタリー)～				ハンセン病の歴史について整理しておくこと			
15	講義まとめ ～資料整理、感想レポート作成～				配布資料をすべて揃え整理しておくこと				
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎				70%		
	授業感想(小レポート)		◎				20%		
	出席状況				◎		10%		
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。								

科目名	人間関係とコミュニケーション						
科目名(英)	Human Relation and Communication						
単位数	2	時間数	30	担当者	亀田 尚		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科・ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	介護福祉士の国家資格取得のための要請科目の一つであり、対人援助職の最も基本となる人間関係とコミュニケーションについて基本的なことを学ぶ基礎科目である。この科目は、「コミュニケーション技術」に繋がる基礎科目であるが、コミュニケーションの技法等よりも、人とのコミュニケーションを阻む要因を考え、かつ自分自身の内面を見つめることを重視する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					人間関係の基本となる知識や理論をできるようになる。	
		○				自分たちが置かれた社会や環境を理解し、自分自身の人間関係の形成に役立てられる。	
				○		自分自身のことを振り返り、自己覚知を深める。	
				○		他者と協力したり、コミュニケーションを円滑に図れるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『MINERVA福祉資格テキスト 介護福祉士 人間と社会編』 ミネルバ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	人の好き嫌い 負の感情の扱い方 <グループディスカッション>					
	3	人間関係について考える その1 集団の中での人間関係 <グループディスカッション>					
	4	人間関係について考える その2 人見知りほ損? <グループディスカッション>					
	5	自己覚知 その1 自信カテスト・コンプレックスについて					
	6	自己覚知 その2 コンプレックスについて				次回までに、各自のコンプレックスについてのレポートを提出する。	
	7	自己覚知 その3 家族について考察する					
	8	自己覚知 その3 自分自身の家族について①					
	9	自己覚知 その3 自分自身の家族について②					
	10	自己覚知 その4 自分自身の家族について③				後日、家族についてのレポートを提出する。	
	11	人間関係の形成 その1					
	12	人間関係の形成 その2					
	13	人間関係の形成 その2					
	14	コミュニケーション技法 その3 共感の技法					
15	総まとめ いじめ社会について考える <グループディスカッション>						
評価方法	レポートを2回実施し、2回目を定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	○		◎	○	100%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	認知症の理解						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年生・ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べるができる		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	認知症とは何か① 認知症の定義と特徴			教科書を事前に読んでおくこと		
	2	認知症とは何か② 症状の全体像			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	3	脳のしくみ① 脳の構造・機能			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	4	脳のしくみ② 認知症における脳の変化			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	5	認知症の症状① 中核症状の理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	6	認知症の症状② 中核症状の理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	7	認知症の症状③ 生活障害の理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	8	認知症の症状④ BPSDの理解			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	9	認知症の診断と重症度			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	10	認知症の原因疾患 アルツハイマー型認知症と血管性認知症の比較			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	11	認知症の原因疾患 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 治療可能な認知症			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	12	認知症の原因疾患 若年性認知症			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	13	認知症の原因疾患の鑑別			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	14	認知症の治療薬と予防			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
15	認知症の基礎的理解のまとめ			前期まとめテストを実施するので勉強しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	保健体育・レクリエーション(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子		
実施年度	2019年	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	人間が「人間らしく、自分らしく、生きていきたい」と願い、追及をしていくその「援助者」としての役割を持つ介護福祉士。被援助者の「願い」の実現のための保健や体育、レクリエーションの知識を学び、利用者に適切に提供することができるよう評価一計画一実施一再評価の方法や活動分析について知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保健やレクリエーションが特定の人や時間に限定されるのではなく、人権、権利であることを知る。	
		○				利用者によって異なる心や体の課題を理解し、利用者個々人に利用者分析を行うことができる。	
				○		利用者へのアセスメント(評価)をもとに利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
				○		利用者の方々に対し 集団も個のあつまりであることを理解し、生活の快を追求するための集団援助ができる。	
	○					身の回りにある保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上挙げるることができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	保健体育・レクリエーション概論・・・レクの主旨、手段、支援の目的				テキスト該当範囲を読んでおく	
	2	楽しさを心の元気づくりの理論・・・楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	3	楽しさを心の元気づくりの理論・・・心の元気と地域のきずな				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	4	レク支援理論・・・コミュニケーションと信頼関係づくりの理論				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	5	レク支援理論・・・良好な集団づくりの理論、(テスト)				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	6	レク支援理論・・・自主的、主体的に楽しむ力を育む理論				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	7	支援のプログラムの理解・・・支援活動実施時のリスクマネジメント、(テスト)				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	8	支援のプログラムの理解・・・福祉分野におけるレクリエーション援助過程				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	9	支援のプログラムの理解・・・長期目標と短期目標の関係、(テスト)				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	10	支援のプログラムの理解・・・プログラムの立案方法				テキスト該当範囲を読んでおく 配布資料を読んでおく	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				
	小テスト	◎	◎				
	宿題・レポート	○	○		◎		
	発表・作品			○	◎		
履修上の注意							

科目名	生活支援技術・基本 I (前期①)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	豆田・案納・吉水・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ベッドメイキング(豆田)					
	2	ベッドメイキング(豆田)					
	3	ベッドメイキング(豆田)					
	4	着脱(案納)					
	5	着脱(案納)					
	6	着脱(案納)					
	7	着脱(案納)					
	8	移動移乗(豆田)					
	9	移動移乗(豆田)					
	10	移動移乗(豆田)					
	11	移動移乗(豆田)					
	12	移動移乗(豆田)					
	13	移動移乗(豆田)					
	14	移動移乗(豆田)					
	15	移動移乗(豆田)					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合は評価対象外とする。						

科目名	生活支援技術・基本 I (前期②)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	豆田・案納・吉水・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(前期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科1年・ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○	○	○	○		各単元の生活支援技術を安全安楽に行うことができる。	
		○	○	○		実施した生活支援技術の根拠を伝えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	移動移乗(豆田)					
	17	移動移乗(豆田)					
	18	移動移乗(豆田)					
	19	移動移乗(豆田)					
	20	排泄(平山)					
	21	排泄(平山)					
	22	排泄(平山)					
	23	排泄(平山)					
	24	演習・p-wc(平山)					
	25	演習・p-wc(平山)					
	26	食事(平山)					
	27	演習・おむつ(平山)					
	28	演習・おむつ(平山)					
29	演習・食事(平山)						
30	演習・食事(平山)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
	発表・作品						
履修上の注意							